感染制御室だより

11月に入り、国内における新型コロナウイルス感染症は増加傾向にあります。

現段階では、新型コロナウイルス感染症対策の効果もありインフルエンザの発生は例年と比較し少ない状況にはありますが、今年の冬はインフルエンザと新型コロナ感染症の同時流行が懸念されています。

当院でも、発熱患者の増加に対応するため病院敷地内北側に臨時外来として検査棟を設置し対応していきます。発熱など新型コロナウイルス感染症を疑う症状で受診される場合は、先ずは病院に電話をしていただき、受診方法をご確認下さい。突然の受診は、院内感染の危険があるためご協力よろしくお願いします。

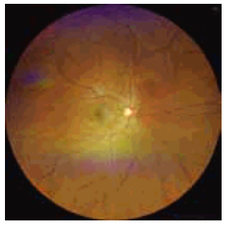
新しい装置の紹介

眼科に超広角眼底撮影装置が入りました。
従来の眼底カメラより広範囲の眼底写真を1度の撮影で取得できます。

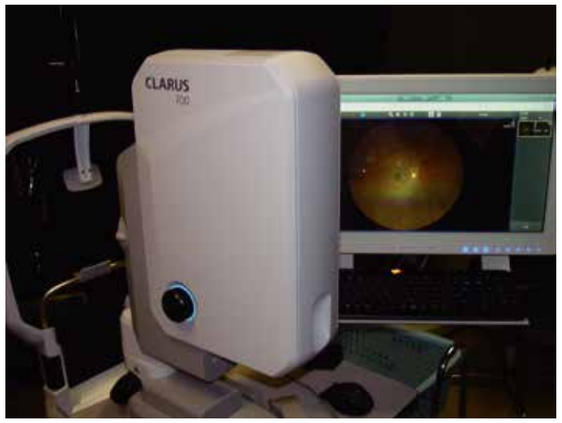
糖尿病網膜症など周辺部の眼底写真撮影が必要な患者さまへの負担が軽減されます。

大切な目を守るためにも、定期的な眼科受診をお願いします。

従来の眼底カメラ



超広角眼底撮影装置



Takasago Municipal Hospital
高砂市民病院　広報広聴委員会 広報紙編集チーム

〒676-8585　兵庫県高砂市荒井町紙町33番1号
TEL 079-442-3981　FAX 079-442-5472
URL https://www.hospital-takasago.jp/

高砂市民病院　検索

研修やオープン カンファレンスなどの内容は、ホームページでご覧ください。
また、当院の活動については公式Facebookページをご覧ください。

通算 142号

高砂市民病院 広報紙

きぼうへのかけはし

2021年冬号

目次

P1…高砂市民病院事業管理者就任のご挨拶
P2…特集「ICT紹介～インフェクションコントロールチーム～」
P4…情報の80%は視覚から
　　ぶらり、診療所紹介の旅
P5…研修医紹介
　　学会発表
P6…部署紹介「地域医療連携室」
P7…患者さまへのお知らせ
　　幼児作品展示
　　おいしいごはん～食堂だより～
P8…感染制御室だより
　　新しい装置の紹介（眼科）

高砂市病院事業管理者 就任のご挨拶

渡部 宜久

令和2年12月1日付けで、都倉高砂市長より高砂市病院事業管理者に任命されました。

市民病院の経営状態の悪化、新型コロナ感染症の流行にも対応しなければならない厳しい状態での任命です。

11月に開催された市民病院に関する高砂市長との意見交換会での資料でもお示ししたように、高砂市民病院は、急性期、回復期（地域包括ケア病棟）、終末期（緩和ケア病棟）の3つの機能を同時に実践できる東播磨医療圏唯一の総合病院です。

加古川中央市民病院や明石医療センターなど急性期治療に特化した病院とは異なり、市民の皆さまに急性期治療（内科疾患による入院や各種手術）から回復期の運動リハビリや嚥下（えんげ）（飲み込み）のリハビリ、人工肛門や褥瘡（じょくそう）（床ずれ）の管理の指導、施設入所の案内、介護や在宅診療の手配までを連続して提供できる機能を持っています。

全室個室の緩和病棟もあり、がんの終末期の“看取（みと）り”を目的とした入院だけでなく、がんによる痛みを和らげるための短期の入院も受け入れることができます。

また、病院併設型の訪問看護ステーションも運用しており、在宅看護や介護を提供すると共に地域の開業医の先生と連携して、“在宅看取（みと）り”などへの対応も行っていきたいと考えています。

急性心筋梗塞などの高度急性期の疾患や、当院で対応できない種類の疾患については、まず、加古川中央市民病院で急性期の治療を受けていただき、急性期の治療が終わった後は、当院の回復期病棟に転入の上、リハビリや自宅退院の準備などを行うという連携ができています。今後はさらに転院を潤滑に行うため、病院間で転院情報を共有するなどの相互連携をすすめていく予定です。

このような連携をしっかり行うことで、すべての疾患について市民の皆さまに安心していただける地域内での診療体制を提供できることになります。

また、兵庫県内でも最低レベルと言われている高砂市の健康診断の受診率を高めるため、関連部署と連携する必要があります。市民病院ではこれまで以上に健康診断を受け入れる体制をつくり、予防医学の面からも市民の皆さまの健康を守る拠点となれるようにします。

高砂市民病院がこれらの機能を提供していくためには、病院経営を安定させる必要があり、急性期、回復期、終末期の各機能を充実させるための努力が必要です。職種、部署間の風通しを良くし、「出来ない」ではなく「出来ることからやる」という姿勢で少しでも赤字を減らし、市民の皆さまに優しい「面倒見のいい病院」としての機能を維持していきたいと思います。

特集

「ICT紹介 ～インフェクションコントロールチーム～」

感染制御室

ICTとはインフェクション（Infection：感染）コントロール（Control：制御）チーム（Team）の略で、院内の感染症の治療から耐性菌対策まで感染対策全般にわたる活動をしているチームです。ICTは院内を横断的に活動するため、ICD（感染制御医師）を中心に臨床検査技師、感染管理認定看護師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、事務職員で構成されています。

ICTの活動には、毎週実施している院内の感染ラウンドや環境パトロール、年に2回以上実施している全職員に対する感染教育などがあります。また、インフルエンザやノロウイルスなどのような突発的な感染症の流行や2019年12月より問題となっている新型コロナウイルス感染症への対応についても院内の最前線でその対策に奔走しています。

現在は、新型コロナウイルス感染症の流行もありますが、当院に来られるすべての方に安心していただけるように院内の感染防止対策に取り組んでいます。

冬に向けての高砂市と市民病院の体制

冬に向けて寒くなり乾燥すると兵庫県でも新型コロナウイルス感染症が増加すると予測されます。

11月に入り、日本では北海道での感染増加が目立っており、ヨーロッパはフランスで1日の感染者数が5万人を超えるなど、春先の第1波よりはるかに悪い感染状況になっており、日本でも全国で感染者が増加し、兵庫でも第3波への対応が必要な状態になっています。

今後、インフルエンザの流行とも重なった場合は、新型コロナウイルス感染症と症状での区別が難しいため気軽にインフルエンザの検査をすることもできなくなり、医院や病院での診察・検査は難しいものになります。

9月に高砂市議会で新型コロナウイルス感染症対策予算が可決されました。その予算をもとに市民病院では、臨時外来として病院北側に検査棟を建て12月から運用を開始します。これにより一般の患者さんと新型コロナウイルス感染症の検査に来た患者さんを完全に分離することができます。

また、新しい検査機械も購入して、PCR検査数の増加にも十分に対応できるようになり、市内企業向けに海外出張目的の自費PCR検査も始めています。全身麻酔で手術予定の患者さんのPCR検査も11月下旬より開始しました。

新型コロナウイルス感染症の第3波、インフルエンザ同時流行の時期に備え、高砂市医師会、高砂西部病院と対策会議をおこないました。高砂市内で診療体制を維持するため、それぞれの医療機関で役割を分担しつつ、密接に連携をとり新型コロナウイルス感染症に立ち向かっていくことを確認しました。

兵庫県では、新型コロナウイルスに感染した場合には全員が入院する体制ができています。退院基準もしっかりしているので、感染した方が身近にでても特別扱いをせず、退院した後は今まで通りに接してください。

新型コロナウイルス感染症対策の基本は、ひとりひとりができるだけ感染の危険性を少なくすることです。

マスクの着用、手洗い、3密を避けるなどできることを続けていくことが大事です。

会議風景

工事の様子

検査棟 出入口

検査棟 完成

防護服

発熱チェック

医療従事者にエールを

住民交流施設「よってこ村・荒井」様より当院の医療スタッフへの「感謝の意」として「ブルー・イルミネーション（青色LED飾り）」の設置、「ブルーボールペン」の提供と共に温かいメッセージをいただきました。青色は医療従事者への感謝の思いを表す取り組みとして世界各地で広がっている「ブルーライトアップ」にちなんだものです。私たち医療従事者にとって素晴らしい励みとなります。本当にありがとうございます。

▲当院から見た「ブルー・イルミネーション」

◀当院に提供された「ブルーボールペン」

情報の80%は視覚から

眼科部長 福永 とも子

人間の眼は、前方に向かって左右対照な位置に2つあり、それぞれの眼の網膜で知覚される像も2つですが、両眼開放下で知覚される像は3次元的に1つとなり、いわゆる立体感を伴って見えるという特性があります。乳幼児期は視覚の発達に大変重要な時期であり、3ヶ月から1歳半が視覚の感受性が最も高く、その間に斜視や弱視がなければ両眼視が備わり、立体視ができるようになります。

わが国では、母子保健法を根拠として、市町村は1歳6か月児及び3歳児に対し健康診査を行う義務があり、1歳6か月児健診96.2%、3歳児健診95.2%（厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」（平成29年度）による）と、非常に高い受診率を誇る日本の優れた母子保健のシステムがあります。平成2年に視聴覚検査が加わり、この健診で斜視・弱視は発見されるケースが多くなりました。

3歳児健診の眼科の一次検査は自覚的検査である視力検査が主であり、3歳児前半と後半では、検査の成績が変わってきます。

ましてや発達障害のあるお子さんの検査は、なかなかうまく出来ずに、親御さんは「自分の子供は検査できないから無理」とか「発達や子育ての問題点を指摘されるのではないか？」という意識が働き、眼科受診を拒むケースもあります。

そのような場合には、「検査ができるまで待っていれば良い」と思われがちですが、実際には屈折異常や斜視の合併が多いため、視力は測定できなくても、眼科診察で眼球に問題がないことを明らかにしなければいけません。「弱視」は、適切な時期に治療を行うことによって良好な視力を得られる可能性が高いため、早期発見・早期治療が重要です。昔は8歳頃までが視覚感受性期間といわれていましたが、最近の研究では視覚感受性期間はもっと長い事がわかっています。健診を受けることで、子供の視力を守ることができます。

また、成人の場合、3大失明の原因となっている緑内障は、進行性の視野障害が特徴です。緑内障は進行しないと視力の低下はありません。健診を受けることで、緑内障が見つかる事が多くみられます。

情報の80%は視覚から入ってきます。

健診を受けることで、子供も大人も目を守りましょう。

研修医紹介

川井田 裕介

①当院での研修2年はどうでしたか？

研修させていただいた診療科で様々なことを経験させて頂きました。楽しく、また時には厳しく指導していただき、少なからず医師として成長できたと思います。

②2年の研修を経て、当院の強みはなんだと感じましたか？

指導医との垣根がなく相談しやすい環境であることです。
また積極的に手をあげれば様々な事にも挑戦させてもらえます。

③どのような医師になりたいですか？

当院で学んだことを基礎にして、患者さんをトータルで診療することができる医師になりたいです。志望診療科は泌尿器科です。

④今後研修を受ける後輩たちに一言お願いします。

医師だけでなく全ての職員の方が研修医に対して優しく接してくださり、研修しやすい環境です。少しでも当院での研修に興味を持たれた方は一度見学へお越しください。

学会発表 ～症例と取り組み～

第22回 日本骨粗鬆症学会
整形外科　長谷川 康裕
演題名：当院での大腿骨近位部骨折後の骨粗鬆症薬物療法の現状

リハビリテーション室　新村 秀幸
演題名：骨粗鬆症検診受診者から見る要治療者の特徴とデータの考察

第31回 日本老年医学会 近畿地方会
看護局　新田 由紀
演題名：病院機能を活かして～介護施設との連携～

兵庫県看護協会主催 シンポジウム
「新型コロナウイルス感染症対応の実際」
看護局　福田 純子
演題名：感染管理認定看護師の取り組み

第14回 日本腎臓病薬物療法学会学術集会総会2020
薬剤科　白木 幸子
演題名：血液浄化センターでの薬剤師の関わり

第33回 日本老年泌尿器学会
リハビリテーション室　上田 恵理子
演題名：バルンカテーテル抜去に関連する諸因子とリハビリテーションとの関わり
～栄養状態に着眼して～

ぶらり、診療所紹介の旅　～もっと知りたい、地域のお医者さん～

医療法人社団 大森整形外科医院　院長　大森 裕

昭和54年に前理事長、大森明夫が自身の出身地である曽根町に有床診療所を開設し、平成20年より私が引き継ぎ、地域の方々に支えていただき今日に至っております。有床診療所が年々減っていく中、なんとか入院病床を維持しております。

開院当初より「地域の皆様に愛され支持される病院を目指して」をスローガンに医療を行っております。今後もこれを目指して行っていきたいと思っています。

尚、訪問看護ステーション・通所リハビリ施設も併設しております。お役に立てることがありましたらご連絡ください。

診療情報はこちら▶http://www.omori-seikeigeka.or.jp/　☎079-448-5000

医療法人社団 三木内科クリニック　院長　三木 章

平成11年に荒井町に開業いたしました。

一般内科を始め消化器、糖尿病を中心に診療を行なっております。

また、肝炎についてもインターフェロン、進歩の凄まじい内服治療（C型肝炎はほぼ100%消えます）も積極的に導入しています。

休日はお気に入りの車に乗りゴルフ場やスポーツ観戦に出かけて心の洗濯をしています。スポーツ観戦は昨年W杯で盛り上がったラグビー、野球、ゴルフをよく観戦します、今後はバスケットも楽しもうと思っています。

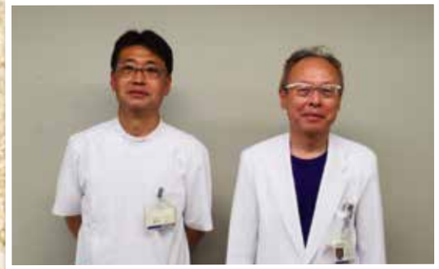
昨年、今年にかけて内外装共にリフレッシュしましたので、地域の患者様のお役にたてるよう、心機一転頑張っていきたいと思います。

診療情報はこちら▶http://www.mikinaikaclinic.com/　☎079-443-8500

部署紹介 地域医療連携室

地域医療連携室は、外来や入院患者さまが安心して外来受診や入院ができるように支援させていただいています。スタッフは、医師（室長）、看護師6名、MSW（医療ソーシャルワーカー）1名、理学療法士1名、事務員3名の計12名です。

医療・介護・福祉についての相談があれば、お気軽にご相談ください！



主な業務内容

①入退院支援・看護相談 ②診察に関する業務 ③病病連携・病診連携 ④広報活動 ⑤統計 です。

私たちが大事にしていること

1 合わせる ▶ 2 整える ▶ 3 つなぐ ▶ 4 備える

- 1 合わせる：患者さまの状態を把握しアセスメントする
- 2 整える：必要な医療・介護体制を多職種で整える
- 3 つなぐ：地域医療関係機関とのカンファレンスで情報共有する
- 4 備える：緊急時に備えて継続的な支援を行う

入院前から退院後の生活を考え、患者・家族さまの意向に添いながら支援させていただいています。

入院支援室がリニューアル

当院に来院時やご相談時はお気軽にお立ち寄りください。

患者さまへのお知らせ

地域の皆様を含めた感染予防の為にも受診の際にはマスクを着用していただき、手指消毒をお願いします。

ホッとひと息寄り道講座

時間：10:00〜10:30　場所：高砂市民病院玄関ホール

1月20日（水）	テーマ：骨粗鬆症について	講師：診療放射線技師　塩谷 直巳
2月17日（水）	テーマ：終活について	講師：司法書士　梅谷 正太 氏
3月17日（水）	テーマ：乳がん検診について	講師：臨床検査技師　木庭 美由紀

※講座日は変更することもあります。

幼児作品展示

患者さまやご家族の癒しとなるよう、市内の公立幼稚園・保育園・認定こども園に通う子供たちの作品を温室横に展示しています。

今回10月は「荒井保育園」、12月は「伊保こども園」の皆さんが作ってくれました。

季節を感じさせる作品だなと思います。

各施設に協力していただき定期的に交換していく予定ですので、来院の際は心温まる作品をご覧ください。

高砂市民病院のフェイスブックにも掲載させていただいています。どうぞ、ご覧ください。

当院では行事に合わせたお食事を「イベントごはん」として提供しています。
記念すべき第１回は、地元で愛され続けるこちらのメニュー。

Vol.1 加古川名物 かつめし

2020年9月18日、ご当地メニューとして地元で抜群の人気を誇る「かつめし」を提供しました。

味の決め手となるデミグラスソースは、納得いくまで何度も試行錯誤した結果、会心の味に！

患者さまからも「目先が変わって嬉しい」「おいしく頂きました」など、嬉しいお声をたくさんいただきました。

今後もスタッフ全員一丸となり、患者さまの満足度向上に努めてまいります。